



# 鶺森神社

浜田城主  
田原家四代の霊を祀った社



## 年中祭礼行事

- 一月元旦……………歳旦祭
- 二月十五日……………どんじやき
- 三月十六日……………祈年祭(御鞆祭)
- 四月九日……………田原稲荷祭
- 八月十六日……………御霊社例祭
- 十月第二日曜日 十四時 秋季大祭  
甘酒まつり・浜田舞獅子奉納
- 十一月二十三日 勤労感謝祭(新嘗祭)
- 十二月三十一日 参拝者接待  
甘酒供与・かがり火守り



秋季大祭・年末年始の飾付け



秋季大祭

## 交通のご案内



## 鶺森神社

〒510-0074 三重県四日市市鶺の森一丁目十三番六号

tel. 059-352-8658

## 田原稲荷大明神

### 御祭神

うけもちのかみ  
保食守  
さるたひこのかみ  
猿田彦守  
おおみやのめのかもと  
大宮能売命



享保九年(1724)の明細帳に載る境内社で、最初は境内の南東の位置にありましたが、安永八年(1799)現在の位置に移されました。田原家の鬼門除けの鎮守として旧境内社(稲荷社・菅原社・御霊社)中の最古社と言われ伝えられています。この稲荷社は歴史的にも田原家と深いつながりがあることから、平成七年の造営に際し「田原稲荷大明神」と改称されました。

## サイカチ(槐)の木



境内に自生する「サイカチ」が平成9年に「みえの樹木百選」と「三重の巨木・古木」に選ばれています。その木は社務所北西側に3本繁茂しており、その中の1本は県下に自生するサイカチとしては珍しいほど大きく希少木として百選に選ばれました。サイカチは、幹や枝には鋭い棘が多数あるマメ科

の落葉高木で、六月頃に小さい淡黄色の花をつけます。また秋に莢(さや)状の実をつけます。  
サイカチの幹から出る樹液は昆虫の好適な餌となり、カブトムシやクワガタがよく集まることから、カブトムシを「サイカチムシ」と呼ぶ地域もあります。



# 鵜森神社の沿革

年代

できごと・記事

慶長以後万治以前 (1596~1658)	鵜森大明神として創立
天保八年(1837)	御霊社を創設。御霊社には田原家四代の霊神を祀った。鵜森大明神には天照大御神、建速須佐之男命、藤原道真を祀った。
明治四十二年(1909)	神社合祀令により、御霊社・鵜森大明神を合祀し、鵜森神社とした。
昭和二年(1927)	浜田城跡は四日市市によって買収され、現在の鵜森公園になった。
昭和三十年(1955) 三月三十日	浜田城跡が四日市市指定記念物(史跡)に指定された。
平成二年(1990) 十一月十一日	平成天皇御即位の大典を記念し、新社殿を再建した。尚、平成四年に社務所、平成七年に田原稲荷社を再建した。

## 鵜森神社と田原家

当社の鎮座地は浜田城の旧跡であり、文明年代(千四百年代)より、浜田城主田原家が崇敬した社です。元は江田神社あるいは鵜森大明神と称されていました。鵜森の語源は、昔付近一帯が松林の続く海岸で、海鵜が多く生息していた森ということ由来しています。文明二年(1470)田原美作守忠秀が浜田城を築城してから田原家四代が居城しましたが、天正三年(1575)織田信長の武將瀧川一益との戦いに敗れ落城しました。落城した浜田城は、その後織田家が居城しましたが、天正十二年(1584)羽柴秀吉に攻められ、完全に落城しました。社伝や口伝によると、慶長以後万治以前(1596~1658)の間に、城主田原家の旧家臣たちがこの城跡に鵜森大明神を創立し、藤原秀郷(田原藤太秀郷)及び初代浜田城主田原美作守忠秀以下四代の霊を祀ったと言われています。田原美作守忠秀は、それまで浜田城の西方芝田の地を南北に通っていた東海道を城の東側に移して交通の便を図りました(現在の旧東海道)。また市場の整備も行うなど殖産振



社紋  
三頭左巴  
田原家の家紋



浜田城跡碑文

興にも努めたことで、六世紀半ばには市場が開かれるようになりました。以来これが、「四日市」と称され、地名の起源ともなった四日市の繁栄の開拓者であります。



### 御祭神

天照大御神  
建速須佐之男命

菅原道真公

浜田家四代

- ◆ 初代城主：田原美作守忠秀  
たはら みまさの かみ たたりで
- ◆ 二代目城主：田原紀伊守藤綱  
たはら きのの かみ つな
- ◆ 三代目城主：田原遠江守元綱  
たはら とおしみの かみ もしな
- ◆ 四代目城主：田原与右衛門重綱  
たはら ふう えもん しげつな

### 社宝

#### 十六間四方白星兜鉢



国指定重要文化財  
(昭和三十年二月二日に指定)

平安時代中期(794~1192年)、藤原秀郷(藤原鎌足八世の孫別名儀 藤太)が大ムカデを退治した時に琵琶湖の龍神から贈られたものと伝えられている。藤原秀郷の末裔である浜田城主田原家の家宝。

藤原秀郷から田原家に引き継がれた家宝として守られていました。同家滅亡後は直系の堀木家が保管し、祠を建てて四代の霊と共に祀っていました。盗難に遭い、後に入手した鳥取の栗田家が田原家の宝物であったことを発見し、万治二年(1659)鵜森大明神に寄進したと言われています。

その後、寛保二年(1742)諏訪神社神主生川播摩守に預けられましたが、大正十五年(1926)鵜森神社に返納されました。その間、明治中期(一八三〇年頃)生川神主宅が火災に遭い、保管箱、布などが焼失し兜鉢のみが残りました。

十月第二日曜日には社殿に飾られ一般に公開されます